



大砂土中だより

はっ らっ

澆 刺 と

さいたま市立大砂土中学校

048-684-8004

<http://osato-j.saitama-city.ed.jp>

No.2 平成28年 5月 2日号

英語教育の潮流

校長 清水 一司

新緑が目眩しい季節となりました。大型連休を迎え、学校は連休後の教育活動のためにエネルギーを蓄えているところです。連休明けには修学旅行、中間テスト、学校総合体育大会と大きな行事が続き、学校が最も学校らしい姿を見せる時期になります。

さて、本号では、英語教育の潮流について考えてみます。平成28年4月5日付けの新聞に、「平成27年度に文部科学省が実施した『英語教育実施状況調査』の結果、実用英語技能検定（英検）3級程度以上の埼玉県の中3年生の割合が41.6%だった」という記事がありました。これによると、文部科学省は都道府県別の結果も発表し、千葉県が52.1%で全国1位となっています。埼玉県は千葉県に10ポイント差をつけられたものの全国7位で、埼玉県の生徒も英語をがんばっていると考えられます。

ところが、この報道の約2ヶ月前の平成28年2月3日付け新聞は、「平成27年度に文部科学省が実施した『英語力調査』で、『読む』『書く』『聞く』『話す』の英語の4技能全てにおいて、文部科学省が設定した目標に届かなかった」と報じています。

この「文部科学省が設定した目標」ですが、国は、平成25年6月に閣議決定した「第2期教育振興基本計画」（国が策定した平成29年度までの教育の総合計画）の中で、英語教育について「中学校卒業段階で英検3級程度以上の生徒の割合を50%、高等学校卒業段階で英検準2級程度～2級程度以上の生徒の割合を50%」としています。この計画決定の後、文部科学省は、平成25年12月に「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」を策定し、「中学校においては授業を英語で行うことを基本とする」「中学校卒業段階において英検3級～準2級程度等を達成目標とする」としています。

他方、平成28年3月26日付けの新聞では、「大学入試改革」について「文部科学省の有識者会議が、大学入試センター試験に代わる『大学入学希望者学力評価テスト（仮称）』の導入を柱とする入試改革の最終報告をまとめた。英語に関するポイントでは、『話す』『書く』『聞く』『読む』の4技能を重視し、民間の資格・検定試験の積極的な活用も検討する。」と報じています。

これら一連の報道から、国は英語教育において「話す」「書く」「聞く」「読む」の4技能を重視し、中学校卒業段階の達成目標を英検3級～準2級程度とする英語教育改革を、指導と評価の両面から実現させようとしていることが窺えます。

本校は、「英語教育研究開発モデル校」として、昨年度から従前の英語科に代わりグローバル・スタディ科を実施しております。本校の実践は、英語によるディスカッションやディベートを通じて生徒が学びを深められるように工夫するなど、従前の英語科以上に4技能をバランスよく伸ばすことができると考えています。私は、生徒たちにグローバル・スタディ科の学習を通じて、グローバル社会で主体的に行動し、たくましく豊かに生きる力を身に付けてほしいと願っています。